

令和2年度

認知症介護研究・研修大府センター 研究報告書

地域在住高齢者の認知機能スクリーニングを目的とした
時計描画テストを用いた質問紙の作成・普及に関する研究
—保健師や介護支援専門員を対象とした研修会の実施—

ケア現場における課題解決のためのツール作成と評価に関する研究

社会福祉法人 仁至会

認知症介護研究・研修大府センター

令和2年度 認知症介護研究・研修大府センター研究報告書

目 次

地域在住高齢者の認知機能スクリーニングを目的とした
時計描画テストを用いた質問紙の作成・普及に関する研究
— 保健師や介護支援専門員を対象とした研修会の実施 —

小長谷陽子・山下 英美・齊藤 千晶…………… 1

ケア現場における課題解決のためのツール作成と評価に関する研究

山口 友佑・中村 裕子・齊藤 千晶・深谷 健司…………… 25

**地域在住高齢者の認知機能スクリーニングを目的とした
時計描画テストを用いた質問紙の作成・普及に関する研究
— 保健師や介護支援専門員を対象とした研修会の実施 —**

**地域在住高齢者の認知機能スクリーニングを目的とした
時計描画テストを用いた質問紙の作成・普及に関する研究
—保健師や介護支援専門員を対象とした研修会の実施—**

主任研究者 小長谷陽子（認知症介護研究・研修大府センター 研究部）
分担研究者 山下 英美（認知症介護研究・研修大府センター 研究部
愛知医療学院短期大学 作業療法学専攻）
齊藤 千晶（認知症介護研究・研修大府センター 研究部）

I. 研究の背景と目的

令和元年6月に国が発表した「認知症施策推進大綱」において、認知機能の低下のある人（軽度認知障害（MCI）含む）を対象とした、早期発見・早期対応（二次予防）は具体的な施策として明記されている。

平成22年、A県B市で実施した、65歳以上の全住民14,949人を対象とした郵送法での「時計描画テスト」（以下CDT）において、地域在住高齢者の中に一定の割合で存在する認知機能障害の可能性のある対象を、CDTによって把握できることが明らかになり、CDTが認知機能スクリーニングとして有用であることが示唆された¹⁾。認知機能の低下は、まず遂行機能障害、すなわち目的のある一連の行動を有効に行うために必要な、計画・実行・監視能力等を含む複雑な認知機能²⁾が障害された状態として現れると考えられている。CDTが視空間認知機能の評価としてだけでなく、認知機能のスクリーニングとしても有用である理由は、その評価項目として、理解、プランニング、視覚記憶と図形イメージの再構成、視空間認知機能、運動プログラムと実行、数字の認識、抽象概念、集中力（注意力）などがあり、長期記憶と情報再生、視知覚と視覚運動能力、注意、同時処理、そして実行機能を評価することができる¹⁾からである。

そこで我々は、地域住民の中から認知機能低下の可能性のある者を早期に発見するために、CDTを用いた簡便なチェックシートを作成し、地域住民に接する機会の多い専門職に使用してもらうことを目的として研究を行っている。

具体的には、平成26年度よりK市において、A短期大学との官学連携事業として実施されている、一般高齢者を対象とした「脳とからだの体力測定会」の参加者に対して、集団での認知機能テスト「ファイブコグ」（CDTを含む）を実施し、軽度認知障害（Mild Cognitive Impairment：以下MCI）の可能性のある人のCDTの特徴を明らかにした³⁻⁵⁾。

平成28年度は平成26・27年度の参加者の内、重複を除いた165名のデータを用いて、MCIの可能性のある人のCDTの特徴を検討した結果、3つの特徴がみられ、特に数字の異常に留意する必要があるということが明らかとなった⁶⁾。

平成29年度には、平成26年度～28年度の参加者の内、複数回参加した37名を対象に1年後の認知機能の変化を分析した結果、2点以上の減点では1年後に認知機能が低下する可能性があることが示唆された⁷⁾。

昨年度（令和元年度）はこれまでの研究から明らかとなった視点を取り入れ、地域の通いの場等で高齢者と接する専門職が、認知機能低下の可能性のある人を簡便に見つけ

出し、受診勧奨やサービスの紹介に活用できるチェックシートを作成した。そして使用に向け改善点を明らかにすることを目的に、地域で高齢者と接する専門職（PT・OT・ST・保健師等）から意見聴取を行い、修正を経て「5分で簡単チェックシート」（資料1）を完成させた⁸⁾。

今年度は、昨年度リハ職以外の職種から聴取された「CDTになじみがなく実施に関して不安である」との意見を元に、実施依頼者に対してCDTについての理解を深めてもらう目的で研修会を実施した。

II. 方法

1) 内容（場所・日時・構成）

新型コロナウイルス感染予防のため、オンライン（Zoom）での開催とした。金曜日の午後に2回に分けて設定し、開催時間は1時間半とした。研修会の構成は、時計描画テストの利点と実施方法の注意点を説明したのち、「5分で簡単チェックシート」の使用方法について説明する流れとした。

*開催日時：<第1回> 令和2年10月30日（金曜日） 14:00～15:30
<第2回> 令和2年11月6日（金曜日） 14:00～15:30

2) 参加対象者

「5分で簡単チェックシート」を実際に使用してもらう専門職として、地域で高齢者と関わる可能性のある、行政担当者・社会福祉協議会職員を対象者とし、愛知県下の全市町村の関連窓口と社会福祉協議会にチラシ（資料2）を送付した。

オンラインでの参加者とのコミュニケーションのしやすさを考慮し1回の定員を30名とした。

3) 事前アンケート

CDTに対して事前の理解度を把握し、研修内容に反映させるため、申込時にGoogle formにて、事前のアンケートに回答してもらった。項目は以下のとおりである。

1. 属性
2. 参加理由（自由記載）
3. 時計描画テストについて
4. 地域高齢者との関わりについて
5. 認知機能の低下が疑われる方に対する関わりについて

4) 資料等の配布

オンライン研修を円滑に進めるため、申込者に事前に以下のものを郵送した。

1. 「5分で簡単チェックシート」 1部
2. セミナー参加に係る留意点について 1部
3. オンライン参加マニュアル 1部

5) 事後アンケート

研修会の理解度・満足度の確認のため、以下の内容のアンケートを Google form で準備した。

1. 属性
2. 研修会について
3. 時計描画テストの実施方法と評価方法について
4. 「5分で簡単チェックシート」について
5. 感想（自由記載）

6) 研修会当日

研修会開始 30 分前から Zoom への参加を可能とし、通信状況の確認を実施するとともに、講義中のトラブルや質問対応のため、講師以外に 2 名のサポート体制を整えた。研修会終了後に事後アンケートを実施した。

Ⅲ.結果

1) 事前アンケート結果

第 1 回への申込者 23 名、第 2 回への申込者 19 名、合計 42 名の回答結果を図 1～7 に示す。

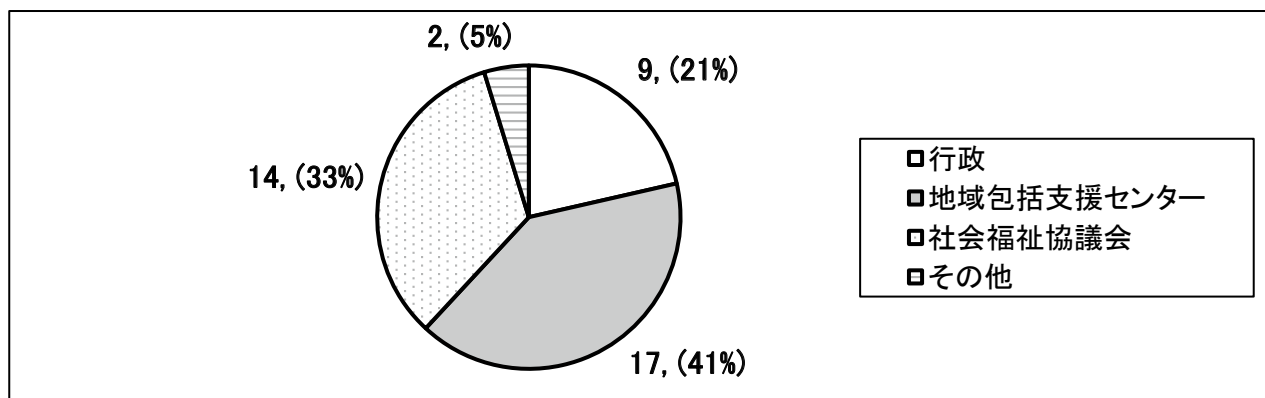


図 1 所属

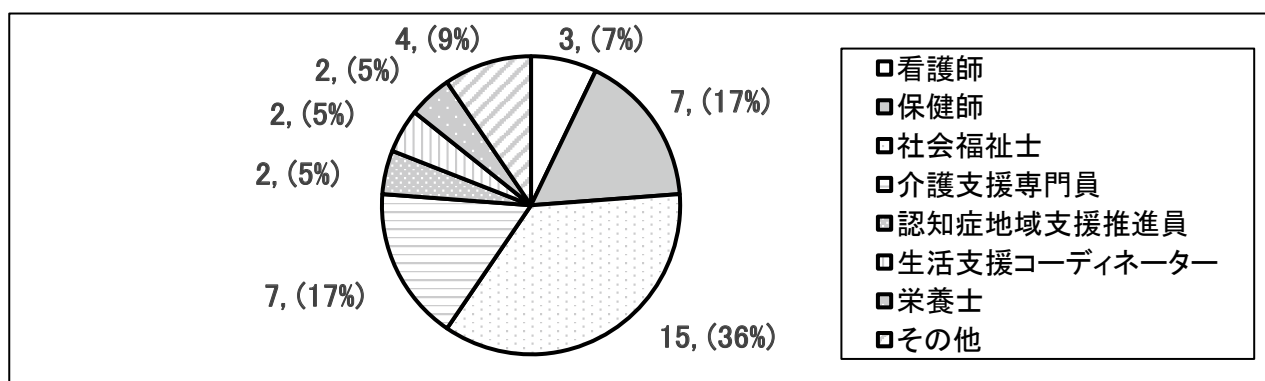


図 2 職種

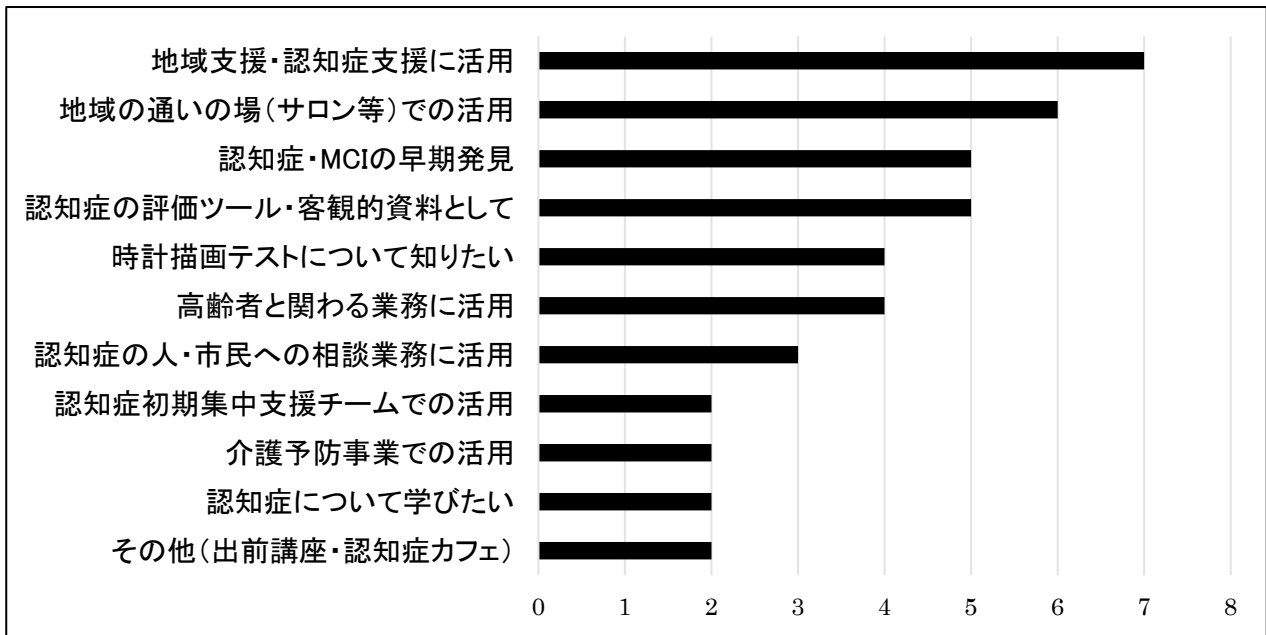


図 3 研修会への参加理由（自由記載内容を分類）

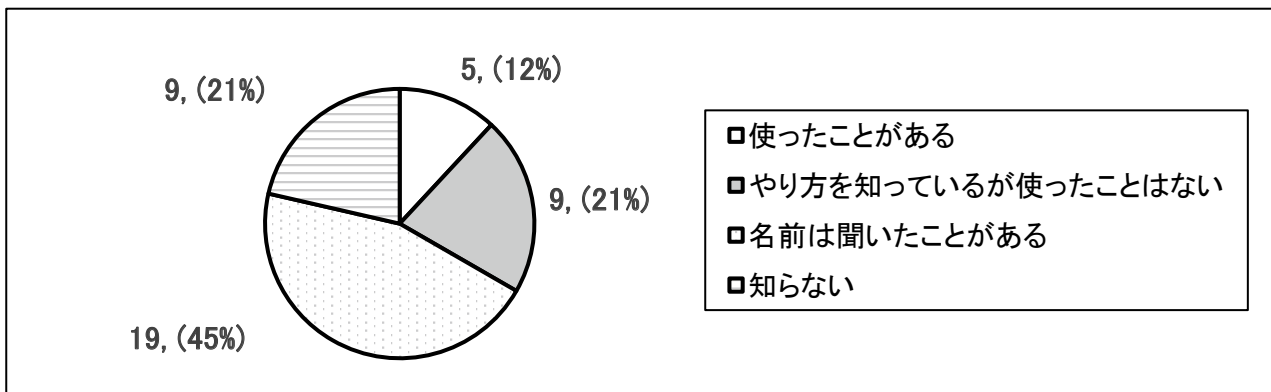


図 4 時計描画テストに関して教えてください

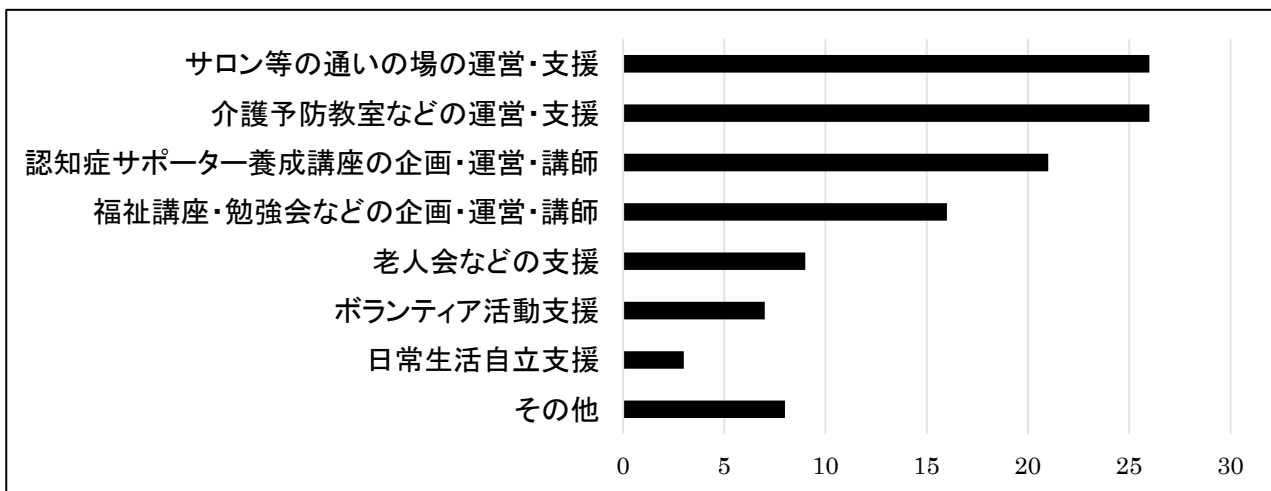


図 5 地域の高齢者との関わりはどのようなものがありますか（複数回答）

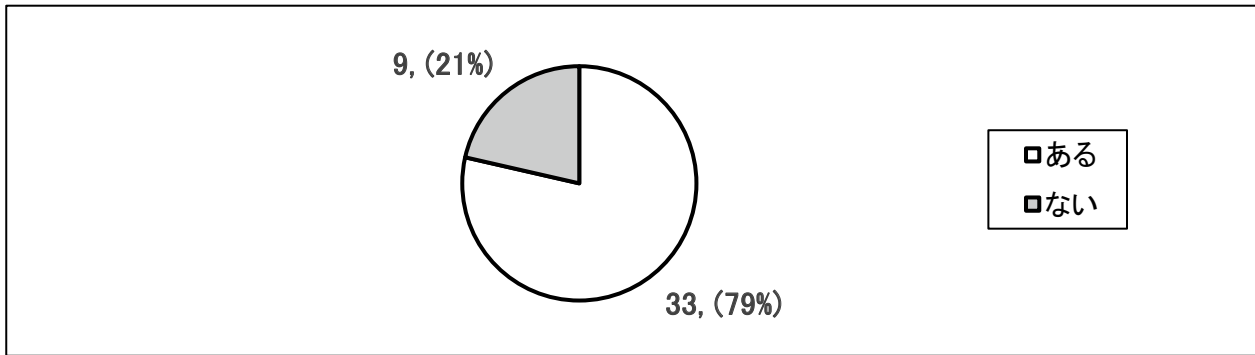


図 6 認知機能の低下が疑われる方に対する関わりで、困ったことはありますか

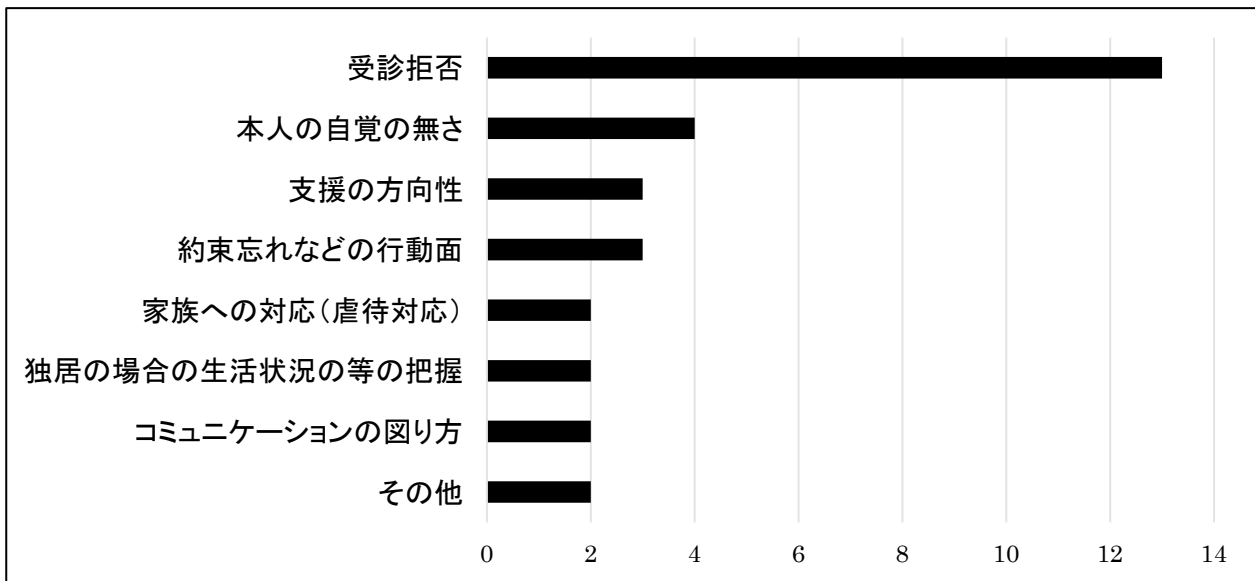


図 7 「ある」と回答した人の具体的な内容（自由記載内容を分類）

申込者の 41%が地域包括支援センター、33%が社会福祉協議会に所属しており、職種は 36%が社会福祉士、次いで保健師と介護支援専門員が 17%であった。研修会への参加理由は地域支援・認知症支援・地域の通いの場（サロン等）での活用や、認知症・MCI の早期発見、認知症の評価ツール・客観的資料としての活用といったものが多かった。時計描画テストについては 45%が名前は聞いたことがあり、21%は知らなかった。地域の高齢者との関わりはサロンなどの通いの場や介護予防教室などの運営・支援が多かった。認知機能の低下が疑われる方に対する関わりでは約 8 割が困ったことがあると回答し、その理由として約 3 割の人が受診拒否を挙げていた。

2) 研修会当日

参加者は事前申し込みでは合計 42 名であったが、キャンセルが 2 名あり、実際の参加者は 40 名であった。

事前配布した「5分で簡単チェックシート」を手元で見てもらいながら、Zoom 画面にパワーポイントを見せ、オンラインで講義を行った。質問はチャットで適宜受け付け、講義終了後にまとめて回答する時間を設けた。質問内容は集団で行う際の注意点や、繰り返

して実施する際に問題無いかといったものであった。

さらに予定時間が残ったため、参加者同士の情報交換の場となるよう、コミュニケーションを促した。コロナ禍での自宅への訪問の仕方の工夫や生活支援コーディネーターとしての取り組み内容の紹介等、活発な意見交換が実施できた。

3) 事後アンケート結果

当日参加者 40 名の内、アンケートへの回答者は 26 名（回答率 65%：1 回目は 52.4%、2 回目は 78.9%）であった。回答結果を図 8～20 に示す。

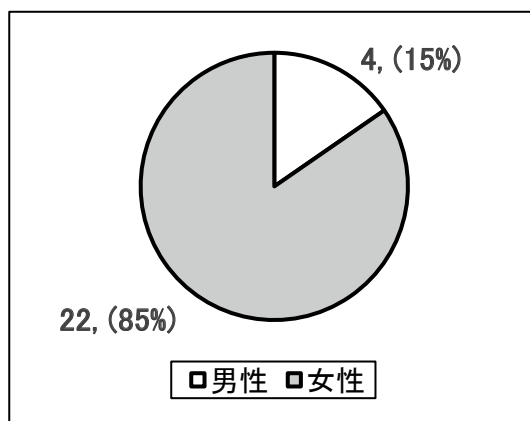


図 8 性別

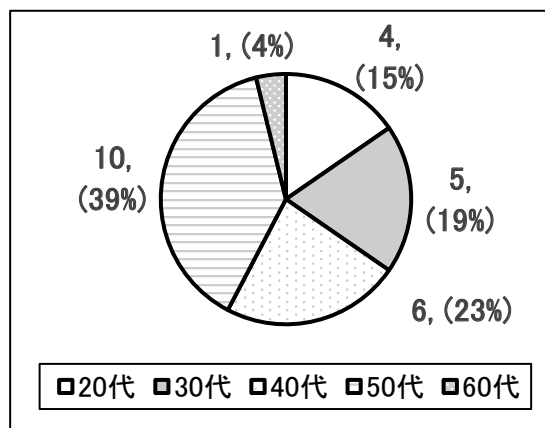


図 9 年齢

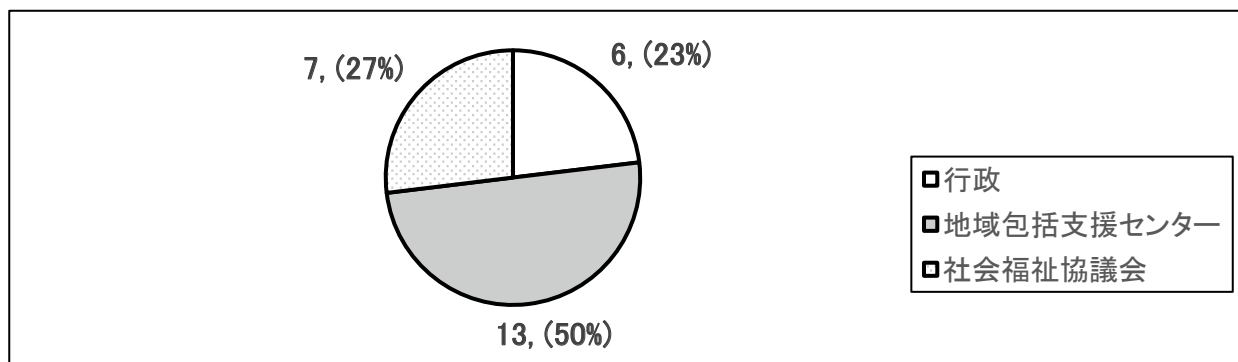


図 10 所属

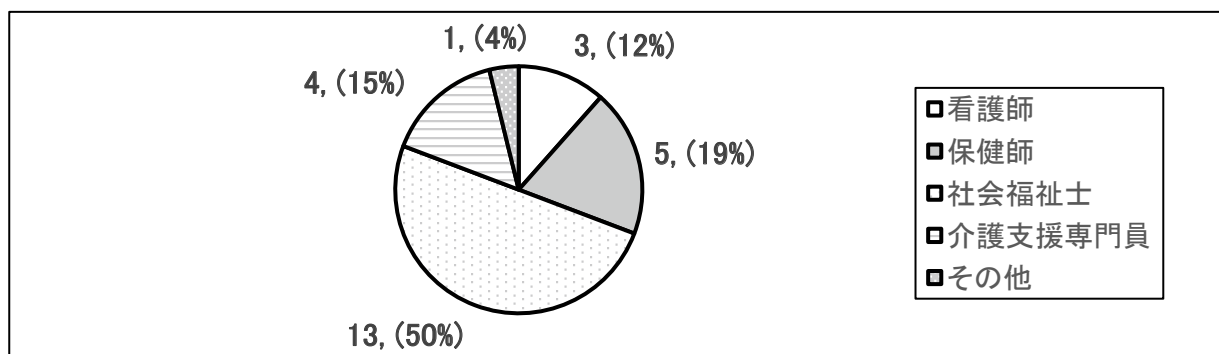


図 11 職種

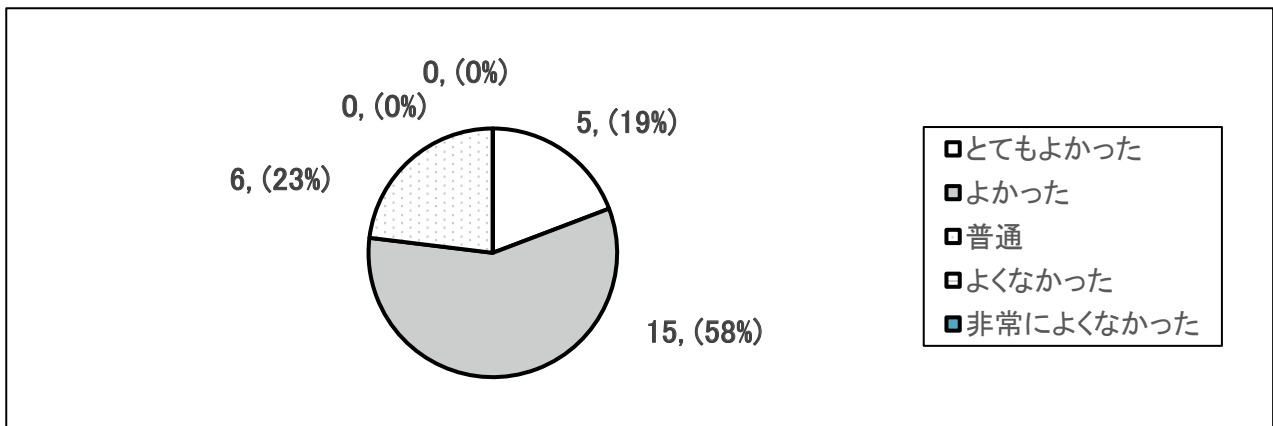


図 12 研修会の形式（Zoom）はいかがでしたか

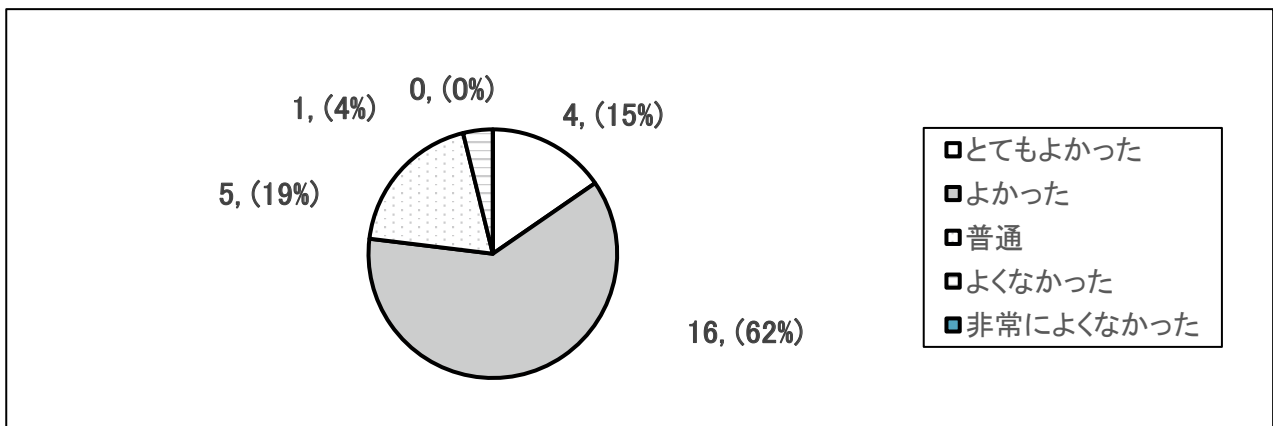


図 13 研修会の日程・時間帯はいかがでしたか

よくなかった 理由

- ・この内容ならもう少し短くてもよかった

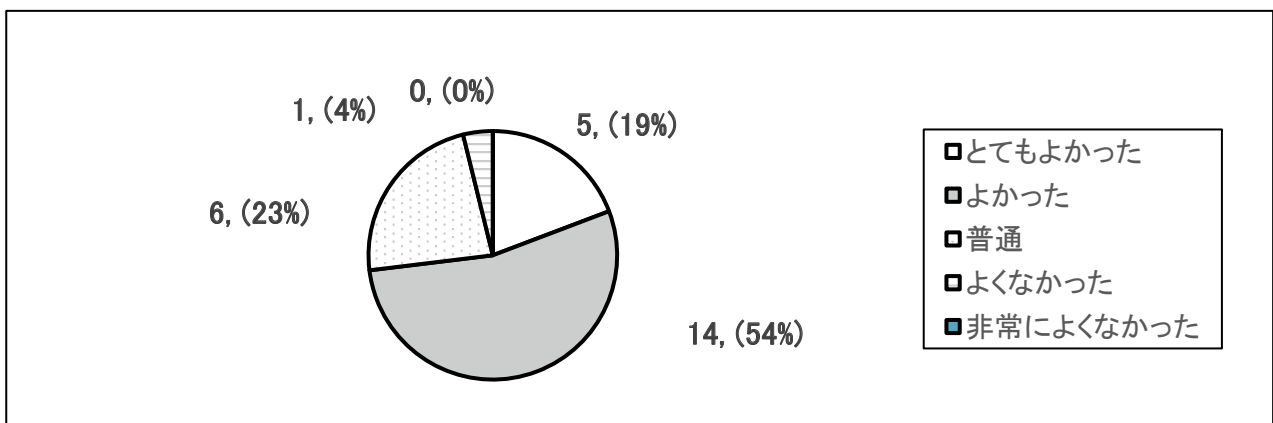


図 14 研修会の構成や内容はいかがでしたか

よくなかった 理由

- ・配布の資料だけで充分理解できた

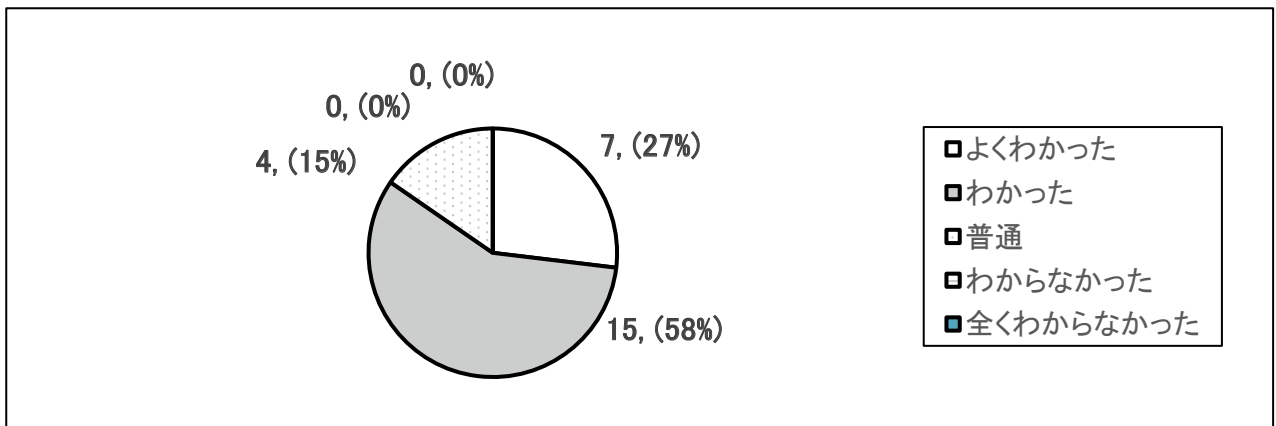


図 15 時計描画テストの実施方法と評価方法の内容についてわかりましたか

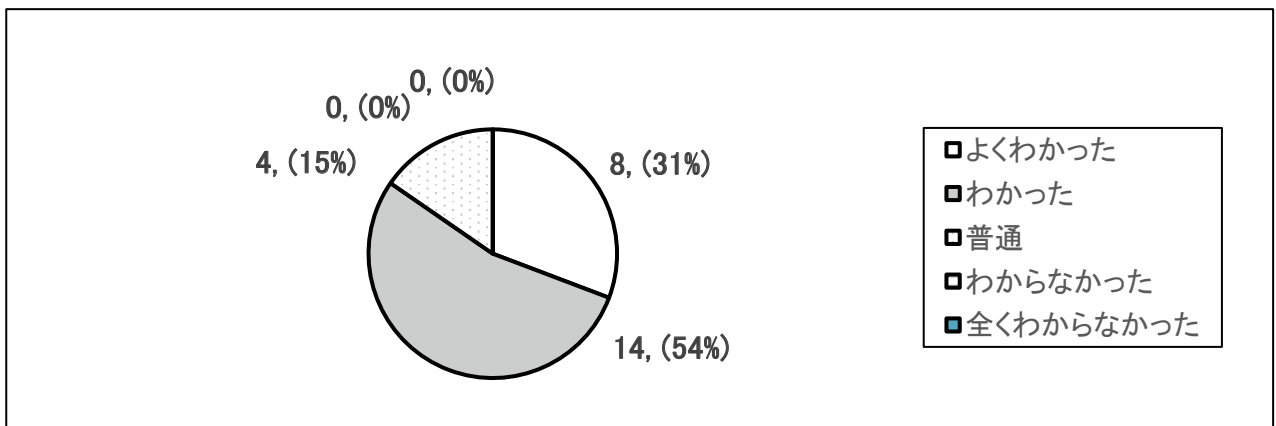


図 16 「5分で簡単チェックシート」の内容についてわかりましたか

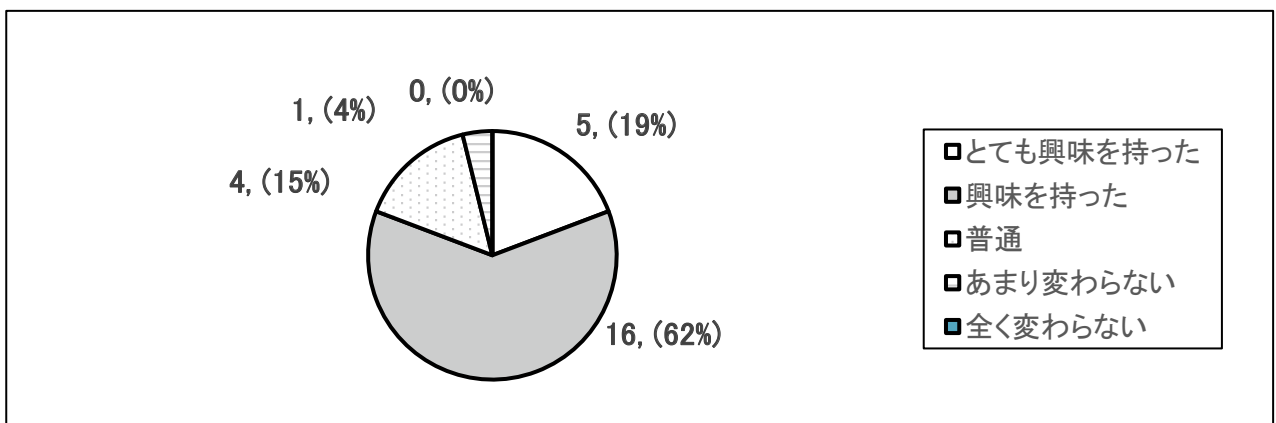


図 17 研修会に参加して「5分で簡単チェックシート」にさらに興味を持たれましたか

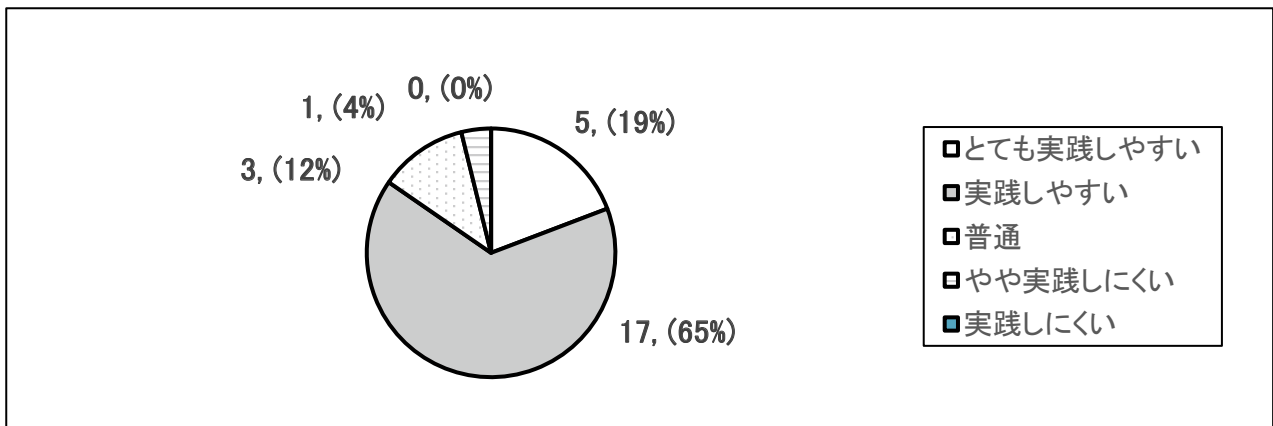


図 18 「5分で簡単チェックシート」は実践しやすいと思いますか
 やや実践しにくい 理由
 ・サロンなど大人数で実施する場合、その場での評価が難しい。職員の負担も大きいため、
 使える場は限られていると感じた。

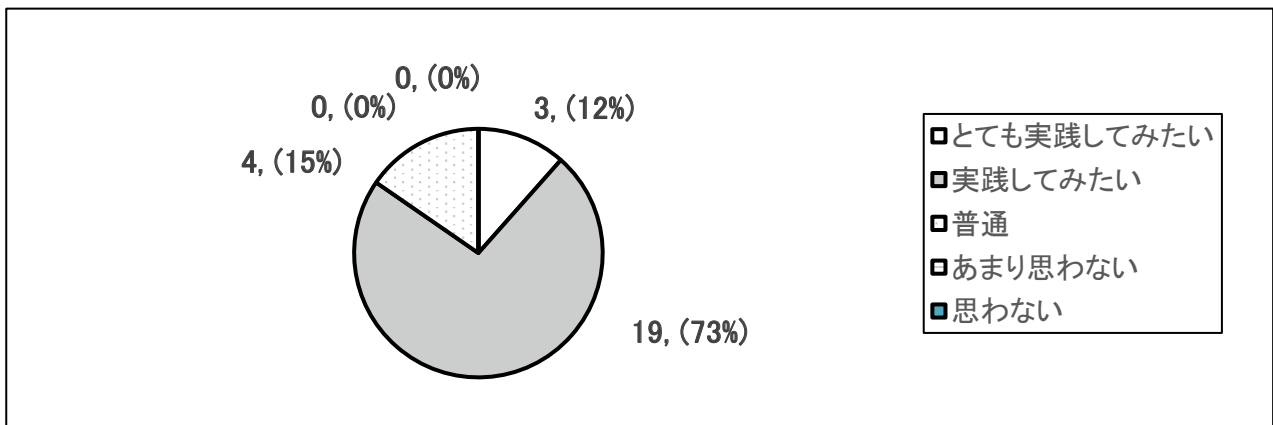


図 19 「5分で簡単チェックシート」を実施してみたいと思いますか

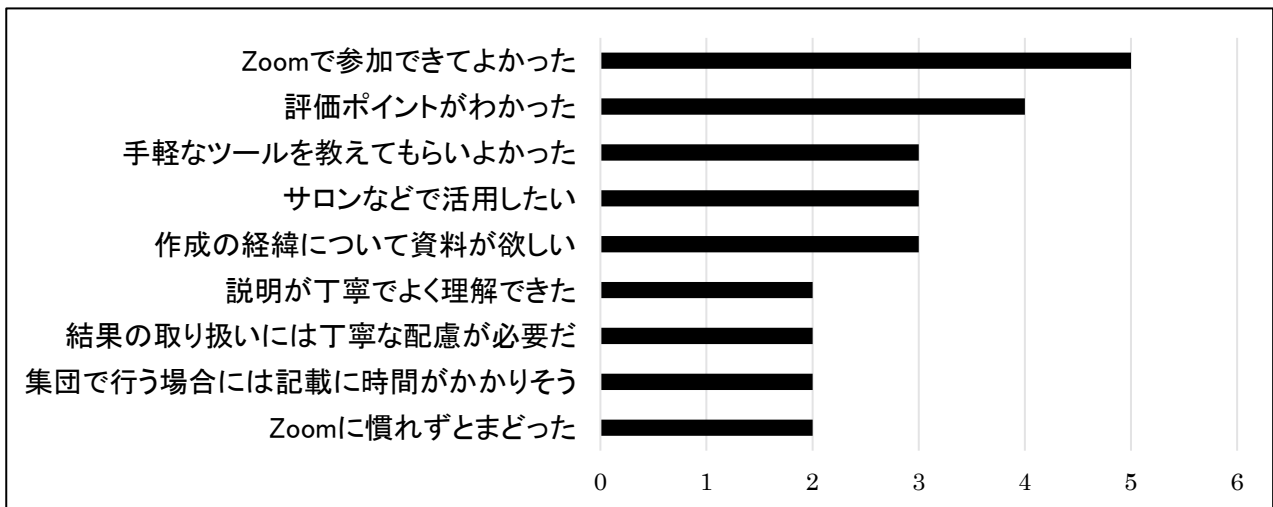


図 20 感想（自由記載内容を分類）

アンケート回答者の 85%は女性で 50 代が最も多かった。半数が地域包括支援センターに所属し職種は半数が社会福祉士であった。Zoom 形式での研修会については、約 75%がとてもよかった・よかったと回答し、よくなかったとの回答はみられなかった。研修会の日程・時間帯、構成や内容についても約 75%がとてもよかった・よかったと回答したが、よくなかったと答えた者も 1 名あった。時計描画テストの実施方法と評価方法、「5 分で簡単チェックシート」の内容については、85%がよくわかった・わかったと回答した。「5 分で簡単チェックシート」については約 8 割が、研修会に参加しさらに興味を持ったと回答し、約 85%がとても実践しやすい・実践しやすいと思うと回答し、85%が実践してみたいと回答した。感想では Zoom で参加できてよかったという記載が多くみられたが、Zoom に慣れずとまどったとの記載も見られた。

IV. 考察

新型コロナウイルス感染予防のためオンラインで研修会を実施したが、40 名の方に参加してもらうことができ、アンケート結果も概ね良好な結果であった。これは、事前の書類の送付や、申込時の質問への回答結果に合わせて研修内容を工夫した結果、Zoom での研修であっても高評価を得ることができたと考えられる。

しかし、事後アンケートの回収率は 1・2 回を合わせると 65%となったが、1 回目は 52.4%、2 回目は 78.9%であった。1 回目が少ない理由としては、事後アンケートを Google form で配信し、研修会終了後に各自提出してもらったため、タイムラグが出てしまい、提出しない受講生が多くなったと考えられる。そこで 2 回目はパワーポイントの画面に QR コードを張り付け、その場でアクセスしやすく工夫した。その結果 2 回目は回答率が上がったと思われる。

このように、まだまだ課題は残る結果となったが、各回の質疑応答時間に、参加者同士の情報交換の場となるよう、コミュニケーションを促した。これは本来の目的とは異なっていたが、コロナ禍で研修会の機会が減っている中、県内の地域高齢者に関わる専門職が集まった場で、情報交換の機会を提供できたことは有意義であったと考える。

オンラインという形ではあったが、地域で高齢者と関わりの多い専門職に対して、CDT やシートへの理解を促すことができ、今後のシートの活用が期待できる研修会となったと考えられる。今後、今回の参加者に連絡をとり、「5 分で簡単チェックシート」の利用状況を調査して、改善と普及に努めていきたい。

V. 文献

- 1) 小長谷陽子、渡邊智之、小長谷正明：地域在住高齢者の認知機能スクリーニングのための時計描画テスト一定量的および定性的評価による検討一．日本老年医学会雑誌 Vol. 49 (4) 483-490. 2012.
- 2) 穴水幸子、加藤元一郎：遂行機能障害の特徴とその評価法．老年精神医学 vol. 20(10) 1133-1138、 2009.
- 3) 小長谷陽子、山下英美、加藤真弓：地域在住高齢者の認知機能スクリーニングのための時計描画テストと手段的 ADL の関連に関する研究．平成 26 年度認知症介護研

究・研修大府センター研究報告書、33-48、2015.

- 4) 小長谷陽子、山下英美、齊藤千晶、水野純平、加藤真弓、鳥居昭久：地域在住高齢者の認知機能スクリーニングのための時計描画テストと手段的 ADL の関連に関する研究. 平成 27 年度認知症介護研究・研修大府センター研究報告書、29-51、2016.
- 5) 小長谷陽子、山下英美、齊藤千晶、水野純平、加藤真弓、鳥居昭久：地域在住高齢者の認知機能スクリーニングのための時計描画テストと手段的 ADL の関連に関する研究. 平成 28 年度認知症介護研究・研修大府センター研究報告書、25-42、2017.
- 6) 小長谷陽子、山下英美、齊藤千晶、水野純平、加藤真弓、鳥居昭久：地域在住高齢者の認知機能スクリーニングのための時計描画テストと手段的 ADL の関連に関する研究. 一時計描画テストの経時的変化から一. 平成 29 年度認知症介護研究・研修大府センター研究報告書、35-44、2018.
- 7) 小長谷陽子、山下英美、齊藤千晶、黒野隼、加藤真弓、鳥居昭久：地域在住高齢者の認知機能スクリーニングのための時計描画テストと手段的 ADL の関連に関する研究. 一MCI の可能性のある人の手段的 ADL の特徴. 脳とからだの体力測定会での時計描画テストの 4 年間の結果から一. 平成 30 年度認知症介護研究・研修大府センター研究報告書、23-34、2019.
- 8) 小長谷陽子、山下英美、齊藤千晶、黒野隼、加藤真弓：地域在住高齢者の認知機能スクリーニングのための時計描画テストと手段的 ADL の関連に関する研究. 認知機能低下者の早期発見とサービス利用に向けたチェックシートの開発一保健師や介護支援専門員、リハ職へのアンケート結果から一. 令和元年度認知症介護研究・研修大府センター研究報告書、29-45、2020.

5分で簡単 チェックシート

地域で活躍中の専門職の皆様へ

時計を描いてもらうだけで、
認知機能低下の可能性のある人が
5分で見つかります！



皆様が日ごろ関わっていらっしゃる地域の高齢者の中に、
「ちょっと認知機能が低下し始めているのではないかな？」
と気になっている方はいらっしゃいませんか？

そんな方に時計を描いてもらうだけで、認知機能低下の
可能性があるかどうか分かるシートができました！

時間は5分。気軽な気持ちでできる内容です。

その場で判定でき、すぐに結果を返せます。

認知症予防のポイント も紹介してあります。

様々なサービスへお誘いするきっかけとして、
医療機関への受診を勧める材料としてご利用下さい！

なお、本シートは認知機能の低下の可能性を示すものであり、
認知症の診断をつけるものではありませんので、ご注意下さい。



チェックの手引

対象者：高齢者の集まる場で希望者に
認知機能の低下の可能性が疑われる方など、
皆様がちょっと気になる方に

対象者に**チェックシート**を渡し、指示に従って時計を描いてもらいます
(**チェックシート**は必要分をコピーしてご利用ください)

チェックシートを受け取り、**チェックポイント**を使って、
時計が正しく描けているか、要注意のポイントがあるかをチェックします

正しく描けている

コメント欄に、**肯定的な
一言**を書いてください

認知症予防のポイントの
簡単な説明をしてください

要注意のポイントがある

コメント欄に、**紹介できるサービス**や
生活のアドバイス等を書いてください

認知症予防のポイントを丁寧に説
明した上で、具体的なサービスの利
用や、受診の勧奨にご利用ください

時計描画テストについて

実施上の注意点

- *時計をかいてもらうことは検査ですので、シートにかいてある以上の指示はしないでください。
- *例えば「数字をかいてください」とか「針を2本かいてください」というようなことは言わないでください。
- *何か質問があれば「思った通りにかいてください」と答えて下さい。
- *壁掛けの時計があれば、見えない向きに座ってもらってください。
- *時間内にかけなければ、正しくかけなかったとして扱って下さい。

チェックの際の注意点

- *チェックポイントには、針の特徴と数字の特徴が分けてかいてありますが、針と数字の両方が正確にかけていなければなりません。

Q&A

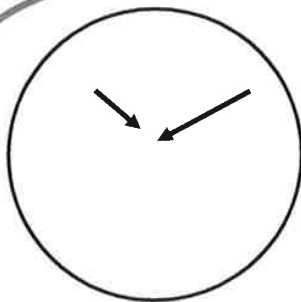
- Q. 数字が円の外に書かれています。
- A. 認知機能に問題のない方でも、数字を円の外や線上にかかれることがあります。本来は円の中にかくことが一般的ですので、経過を見守って下さい。
- Q. 数字が12・3・6・9しか書かれていません。
- A. 認知機能に問題のない方でも、そのような省略はみられますが、本来はすべての数字をかくべきですので、経過を見守って下さい。
- Q. 要注意のポイントが複数あります。
- A. 認知機能の低下の可能性が、より高いと考えられます。専門医療機関にご相談されることを勧めて下さい。



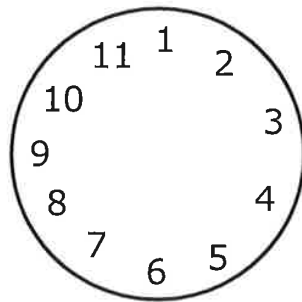
チェックポイント



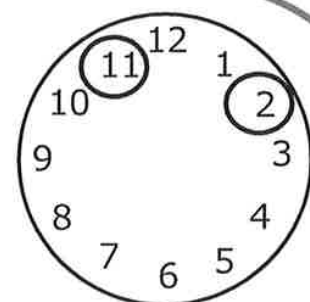
こんな時計は**要注意**！



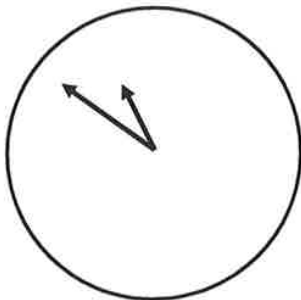
針が中心に向く



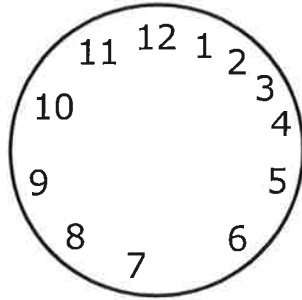
1 から始まる・12 が無い



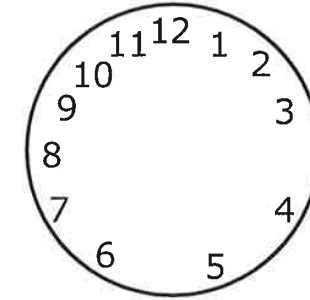
数字を○で囲む



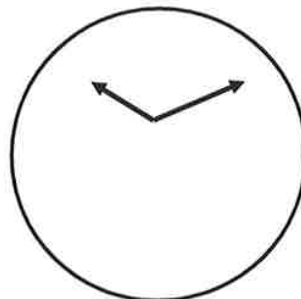
長針が 10 を指す



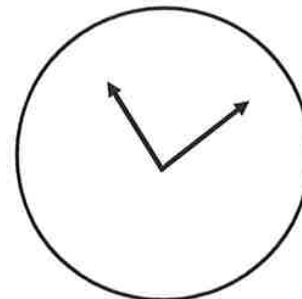
数字の位置のバランスが悪い



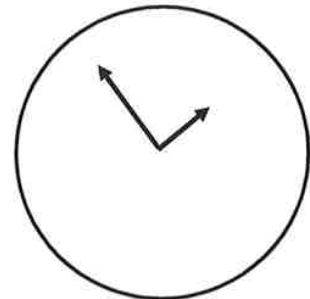
これらは健常な高齢者でも見られる場合がありますが、経過を見守って下さい



針が上に偏る



長針と短針の長さが同じ



長針と短針が逆



コメント欄の記載で困ったら

肯定的な一言の例

「今のところ、認知機能の低下はみられません。

引き続き〇〇教室に通って、活発な生活を続けましょう。」

「今のところ、認知機能の低下はみられません。

ここに書いてあるような、認知症予防活動を続けていきましょう。」

要注意の場合の例

「認知症というわけではありませんが、認知機能の低下の可能性があるので、

このサロン以外にも、近くにある●●教室に通ってみませんか。」

「認知症というわけではありませんが、認知機能の低下の可能性があるので、

一度、△△病院の受診について、ご家族とご相談されてはいかがでしょうか。」

対象者を傷つける事の無いよう、
慎重に言葉を選ぶようにしてください。





その他ご不明な点があれば、下記にご連絡ください

問い合わせ先

社会福祉法人 仁至会 認知症介護研究・研修大府センター

〒474-0037 愛知県大府市半月町三丁目 294 番地

TEL:0562-44-5551 FAX : 0562-44-5831

E-Mail:jimubu.o-dcrc@dcnet.gr.jp

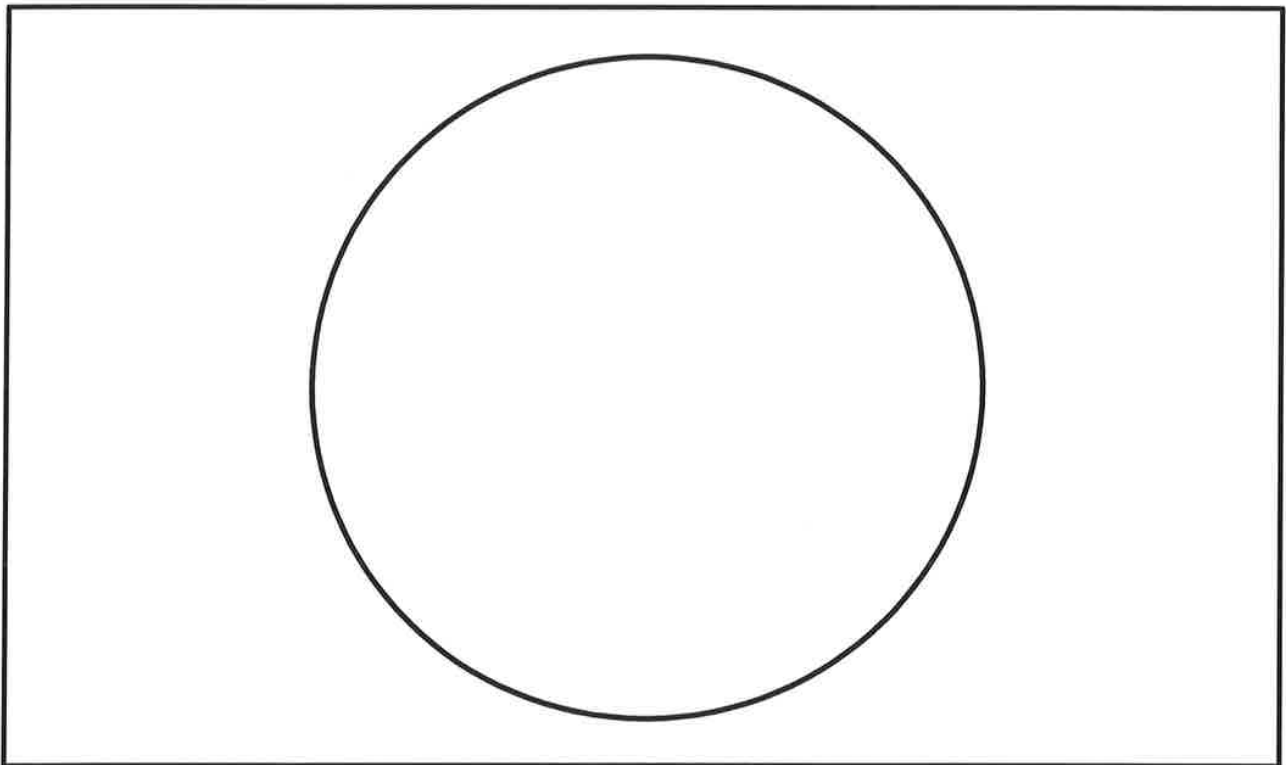
ホームページ : <http://www.dcnet.gr.jp/>

担当 : 山下 (小長谷)



5分で簡単 チェックシート

11時10分を指す時計を描いてください。
制限時間は1分30秒です。



認知症予防のポイント

生活習慣を見直しましょう

高血圧・脂質異常症・糖尿病・肥満に気を付けましょう。お薬もしっかり飲みましょう。



運動しながら頭を使いましょう

2つのことを同時に行う、例えばウォーキングなどの有酸素運動をしながら、少し難しいくらいの知的活動（しりとり・計算・川柳など）を行ってみましょう。

さくら

ラッパ

パラソル



いきいきと暮らしましょう

ご自分の好きなことを続けて、楽しみながら脳を活性化しましょう。昔やりたかったけれど、できなかったことにチャレンジしてみるのも良いでしょう。外に出かけて、様々な人と交流しましょう。



コメント



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

時計を描いてもらって認知症予備軍を見つけましょう！

地域で役立つ 「5分で簡単チェックシート」 紹介セミナー

地域の通いの場などで活用できる認知機能の評価ツールを紹介します

地域在住高齢者から認知機能低下の可能性のある人を早期に発見することは、これからの地域づくりに重要です。

私たちは認知機能低下の可能性のある人の、時計描画の特徴を明らかにし、それを基に要注意な時計のチェックポイントなどをコンパクトにまとめた、「5分で簡単チェックシート」を作成しました。時計描画テストは紙と鉛筆さえあれば、どこでも手軽に行うことのできるテストです。

今回、時計描画テストにあまりなじみのない皆様に、時計描画テストの利点、実施方法と注意点を説明し、シートの使用方法をお伝えします。

ぜひ、ご参加ください。

セミナー内容

- ・ 時計描画テストの利点、実施方法と注意点
- ・ 「5分で簡単チェックシート」の使用方法

研修会はオンライン (Zoom) で行います

参加費
無料

日程 2020年 10月30日 (金) または 11月6日 (金)

時間 14:00～15:30 定員 各回 先着30名

講師 山下英美 (認知症介護研究・研修大府センター 研究員)

お申込み・お問い合わせ: 認知症介護研究・研修大府センター
詳しくは裏面へ



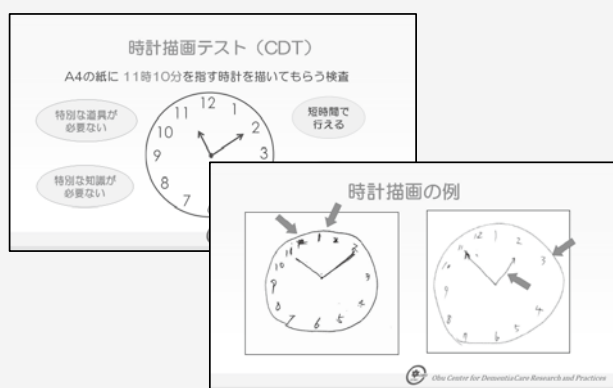
ちょっと気になるあの方を、医療・介護に繋げるお手伝い

皆様が日ごろ関わっていらっしゃる地域の高齢者の中に
「ちょっと、認知機能が低下し始めているんじゃないかな？」と
気になっている方はいらっしゃいませんか？
「サービスを勧めたいけど『まだ大丈夫』と仰るかも…」という
ことはありませんか？

このシートは、地域の活動の場や、講座などの依頼があった際に、参加者の皆さんに気軽な気持ちで実施してもらえる内容です。チェックポイントに従い結果を出し、その場でお返しできます。

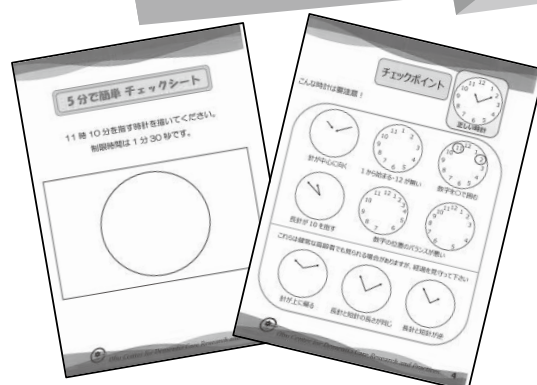
様々なサービスへお誘いするきっかけとして、医療機関への受診を勧める材料としてもお使いいただけます。

時計描画テストの利点 やり方や注意点を説明します



5分で簡単
チェックシート

無料で差し上げます



お申込み・お問い合わせ:

下記のURL又はQRコードからお申込みください。(締め切り10月16日(金))

https://docs.google.com/forms/d/1AqfG_tkXRsvAb5U2WU5FKuIvslZGTFfLkfw4hdI3-6E/edit

受講者へのご案内:

- ・オンライン (Zoom) 開催のため、各自、ご自宅や事業所からご参加ください。
- ・インターネットに安定してつながるパソコン、タブレットで、マイク・カメラが使える環境をご用意ください。スマートフォンの利用も可能ですが、画面が小さく見づらいので、パソコンでの参加をお勧めいたします。
- ・受講決定者には、メールにて受講決定通知を送らせていただきます。



【お問い合わせ先】

社会福祉法人仁至会 認知症介護研究・研修大府センター 担当: 齊藤・花井
〒474-0037 愛知県大府市半月町三丁目294番地
TEL:0562-44-5551 FAX:0562-44-5831 Mail: jimubu.o-dcrc@dcnet.gr.jp



Obu Center for Dementia Care Research and Practices

ケア現場における課題解決のためのツール作成と評価 に関する研究

ケア現場における課題解決のためのツール作成と評価に関する研究

主任研究者 山口 友佑（認知症介護研究・研修大府センター 研修部）
分担研究者 中村 裕子（認知症介護研究・研修大府センター 研修部）
齊藤 千晶（認知症介護研究・研修大府センター 研究部）
研究協力者 深谷 健司（介護老人保健施設 ルミナス大府）

I. 背景と目的

介護保険サービス施設・事業所（以下：事業所）において、継続的に事業所における認知症ケアの質向上を果たすためには、職員自らが介護現場で抱えている様々な課題を抽出し、課題解決に向けて計画を立て、調査や取り組みを行い評価するという「研究活動」を実践していくことが重要である。しかし、教育的な背景や慢性的な人手不足の問題などから、ケア実践者が自ら研究活動を実践することは、ハードルが高く、誰もが実践できる状況になっていないのが現状である。

認知症介護研究・研修大府センター（以下：大府センター）では、昨年度、介護現場における研究活動を支援するため法人内連携プロジェクトを立ち上げ、同法人内にある介護老人保健施設で実践されている研究活動のサポートを行った。サポートを受け研究活動を行ったことに対し、ケア実践者から「サポートを受け研究活動を実践したことにより、職員や利用者を含めフロア全体の雰囲気が変わった」、「今まで気づくことが出来なかったフロアの課題に気付くことが出来た」等の反応があったことから、研究のサポートは一定の効果があったと考えられるが、研究の進め方や調査の仕方などについては、大府センターが主体となって行っていた部分も多く、ケア実践者が自ら研究活動を実践できたとは言い難い現状も明らかになった。

そこで本研究では、昨年度実施した研究サポートを継続しつつ、ケア実践者が主体となって実践現場の中で研究活動が実践することができるための「研究活動支援ツール」（以下、支援ツール）の開発を行い、その効果の検証を行うことを目的とする。

II. 本研究の到達目標

本研究は、同法人内にある介護老人保健施設内にある研究研修委員会と協働し、「研究活動支援ツール」を用いながら施設内にて研究活動を実践し、その成果を「施設内研究報告会」と「第17回東海・北陸ブロック老健大会」にて発表することを目標とした。研究活動に関しては、大府センターが適宜サポートを行った。老健大会にて研究成果発表を行うのが、4Fフロアのスタッフということから、今回は4Fフロアでの「研究活動」の支援を行った。

III. 本研究の意義

本研究の意義については、以下の3点である。

第1に「支援ツール」を用いて研究活動を実践することで、実践現場における研究活動の一連の流れが身に付き、研究的視点をもって実践現場の課題解決に向けて取り組むことが出来る。第2に、研究活動の手法を体得することで、継続的に実践現場の中で研究活動を実施できるようになる。第3に、「支援ツール」を用いての研究活動を通じて、事業所全体で課題に向き合い、解決に向け取り組むことで、事業所における今後の認知症ケアの質

向上に寄与することが出来ることである。

IV. 本研究の流れについて（表 1）

本研究の流れについては、以下の通りである。

- ① 大府センター内に企画委員会を設置し、「支援ツール」の枠組みについて検討する。
- ② 研究担当者 3 名と研究活動の経験がある認知症介護指導者 5 名からなる検討委員会を設置し、「支援ツール」の具体的内容について検討する。
- ③ 研究担当者 3 名と研究協力者（同法人内介護老人保健施設職員）1 名からなる作業部会を設置し、介護老人保健施設の研究研修委員会を連携し、「支援ツール」を使用し研究活動を実践する。（適宜、研究活動への支援を行う）
- ④ 施設内研究報告会ならびに老健大会の研究成果報告の抄録作成のサポートを行う。
- ⑤ 施設内研究報告会で使用する発表資料作成のサポートを行う。
- ⑥ 老健大会の研究報告で使用する発表資料作成のサポートを行う。

表 1 本研究の流れについて

月	概要	
2020.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画委員会の設置 ・ 「支援ツール」の枠組みの検討 	①
5		
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討委員会の設置 ・ 「支援ツール」の具体的内容の検討 	②
7		
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業部会の設置 ・ 介護老人保健施設の研究研修委員会を連携し、「支援ツール」を使用し研究活動を実践 <p style="text-align: center;">* 状況に応じて適宜サポート</p>	③
9		
10		
11		
12		
2021.1	老健大会発表 抄録作成のサポート 施設内研究報告会 抄録作成のサポート	④
2	施設内研究報告会 発表資料作成のサポート	⑤
3	老健大会 発表資料作成のサポート	⑥

V. 「支援ツール」の概要について

今回開発した「支援ツール」は、個人で事業所の課題を整理する部分（個人ワーク）と事業所のスタッフ同士で話し合い課題を整理する部分（グループワーク）の2本の柱から構成されている。以下、個人ワークとグループワークの内容と流れについて述べていくことにする。

1. 個人ワーク

個人ワークでは、以下の手順に従ってワークを進めていく。

- ① 日頃ケアを実践する中で困っていることについて、「日々の業務全般」、「利用者へのケア」、「職員や家族との関わり」、「職場環境」の4つの場面を分け、各場面3つずつ記入を行う。
- ② ①で記入した課題を、「他のスタッフも同じように困っている」、「利用者も同じように困っている」、「施設として今すぐ取り組むべき困りごとである」、「取り組み期間の中で完結することができる」の4つ項目で、「とても思う、そう思う、あまり思わない、思わない」の4件法で評価し、自分自身が最も解決したいと思う困りごとを抽出する。
- ③ ②で抽出した困りごとについて、「いつ起きているのか、どこで起きているのか、誰に対して起きているのか、どのような時に起きているのか、何故起きているのか」を考え、シートに記入を行う

2. グループワーク

グループワークでは、以下の手順に従ってワークを進めていく。

- ① 個人ワークで整理した内容を共有し、その中から事業所として困っていることを抽出する。
- ② ①で抽出した困りごとを、「利用者、家族、スタッフ、職場環境、その他」の5つの要因を用いて、グループ内で話し合い整理する。
- ③ ①で抽出した困りごとが続くことによる影響について、「利用者、家族、スタッフ、職場全体、その他」の5つの視点を用いて、グループ内で話し合い整理する。
- ④ ①で抽出した困りごとを解決することで、どのような状態になるとよいのか、グループ内で話し合い整理する。
- ⑤ ④で検討した状態に向かうために、どのようなアイデアがあるかについて、今まで話してきた内容も踏まえ、グループ内で話し合い整理し、取り組むことが出来るアイデアを抽出する。

VI. 「支援ツール」を使用したことに対する感想

今回、研究活動を支援する4Fフロアのスタッフを対象に、実際に「支援ツール」を使用し研究活動を実践してもらい、「支援ツール」に対する感想等をインタビュー調査した結果を、表2に示す。

感想として<色々話し合えてよかった>、<課題が見つかった>など【グループワーク

の良さ】、＜文章の意味が何通りかになっている＞、＜「日々の業務全般」が全てに思える＞など【言葉の定義の曖昧さ】、＜何を導き出したかがわかりにくい＞、＜まわりくどい構成になっていると感じた＞など【ツール全体の構成の曖昧さ】の3つのカテゴリーに分けることが出来た。

表2 「支援ツール」を使用したことに対する感想

カテゴリー	回答例
グループワークの良さ	色々と話し合えてよかった
	意見交換できてよかった
	GWを通じて課題が見つかった
言葉の定義の曖昧さ	文章の意味が何通りかになっている
	「日々の業務全般」が全てに思える
	家族という言葉が、「利用者の家族」か「自分の家族」なのかがわからない
	「ケア」というのは「関わり」という意味も含まれているのかわからない
ツール全体の構成の曖昧さ	何を導き出したかがわかりにくい
	まわりくどい構成になっていると感じた

VI. 「支援ツール」の効果と今後の課題について

1) 「支援ツール」の効果について

実際に「支援ツール」を使用し研究活動を実践したスタッフからの感想より、グループワークを通じて、「色々と話し合えたこと」や「課題が見つかった」等の感想があったことから、「支援ツール」は、ケア実践者が主体となって事業所の課題に向き合い、取り組むきっかけを作ることにつながったと考えられる。しかし、言葉の定義やツール全体の構成の曖昧さなどから、ケア実践者の中で研究に対する考え方や課題の捉え方に違いが生じてしまっていることが考えられる。「支援ツール」が何を目指しているのか、ツールの中で使用している言葉が何を意味しているのかについて、ケア実践者側の視点で再度検討し、ケア実践者が主体となって研究活動を実践することができる「支援ツール」を検討していくことが重要である。

2) 今後の課題について

本年度は「支援ツール」を使用して研究活動を実践し、その成果を研究報告会ならびに老健大会にて報告をすることを研究の到達目標として取り組んできた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、施設内における研究活動が中止となってしまった。また「支援ツール」については「事業所内の課題を整理する」項目までは作成することが出来たが、課題の整理から、研究計画を立て実践し評価するまでの項目については、完成に至らなかった。来年度については、引き続き「支援ツール」の開発に取り組み、実践現場に普及していく。

VII. まとめ

認知症ケアの現場では、人手不足の問題など様々な課題を抱えながら、認知症の人が「その人らしい」生活を過ごせるよう、ケアが実践されている。そのような状況の中にも、認知症ケアの質向上を図り、ケアを実践していくことが求められている。そのためにも、実践現場の中で「研究活動」を行い課題解決に向けて取り組んでいくことは大きな意義があり、そのことは業務改善や離職防止を検討することにも繋がってくるといえる。

今年度の研究事業で取り組んだことで明らかになったことを踏まえ、引き続き、ケア実践者が主体となって研究活動を行うことができる「支援ツール」の開発を行い、ケア現場での課題解決力の向上に努めていきたいと考えている。

最後に、今回の研究事業にご協力いただいた介護老人保健施設ルミナス大府の深谷健司様ならびに関係職員の皆様、検討委員としてご協力いただいた認知症介護指導者の皆様に、この書面を借りて厚く御礼申し上げます。

【資料 1】「研究開発支援ツール」について

職場の困りごと解決シート

1. あなたが感じている困りごとについて、それぞれの場面ごとに記入してみましょう。

○日々の業務全般で困っていること

①
②
③

○利用者へのケアで困っていること

①
②
③

○職員や家族との関わりで困っていること

①
②
③

○職場環境で困っていること

①
②
③

2. 1 で記入した困りごとについて、各項目であなたはどのように思いますか。
 各項目に対して「◎＝とても思う、○＝そう思う、△＝あまり思わない、×＝思わない」で示してみましょう。

		他のスタッフも同じように困っている	利用者も同じように困っている	施設として今すぐに取り組むべき困りごとである	取り組み期間の中で完結することが出来る
日々の業務全般で困っていること	①				
	②				
	③				
利用者へのケアで困っていること	①				
	②				
	③				
職員や家族との関わりで困っていること	①				
	②				
	③				
職場環境で困っていること	①				
	②				
	③				

3. 2 の表で記入した中で、自分自身が最も解決したいと思う困りごとを下記の空欄に一つ書いてみましょう。

--

4. 3 で記入した「困りごと」はどのような状況の時に起きているか考えてみましょう。

いつ起きているのか

どこで起きているのか

誰に対して起きているのか

どのような時に起きているのか

何故起きてしまうのか

ここまで記入出来たら、一度メンバー同士で話し合ってみましょう

スタッフ同士での話し合い

日時：

参加メンバー：

5. 個人ワークで整理した内容について、メンバー間で意見交換をしましょう。

○意見交換の進め方について

- ①まずメンバーの中から、リーダーを1人決めてください。
(リーダーはグループワーク全体の進行役になります)
- ②整理してきた個人ワークの内容について、メンバー1人ずつ発表してください。
- ③発表が終わったら、リーダーがまとめ役となり、発表した内容で似ているものを集めてみてください。
- ④集めた内容から、全体で何に困っているのかをメンバー間で話し合ってみてください。

6. 意見交換の結果から、全体で困っていることについて、下記の空欄に1つ記入してみましょう。

--

7. 6で記入した「困りごと」には、どのような要因があると思いますか。それぞれについてメンバーで出し合い、書いてみましょう。

利用者	
家族	
スタッフ	
職場環境	
その他	

8. 6で記入した「困りごと」が続いてしまうと、どのような悪影響が出てしまうと思いますか。

利用者に対して	
家族に対して	
スタッフに対して	
職場全体に対して	
その他	

9. 6で記入した「困りごと」を解決することで、どのような状態になるとよいと思いますか。

--

10. 9で記入した状態に向かうためには、どのようなアイデアがあると思いますか。7でまとめた要因についても、考慮しながら考えてみましょう。

--

11. 10で記入した中で、取り組むことが出来るアイデアを書いてみましょう。

--

令和2年度 認知症介護研究・研修大府センター研究報告書

発行：令和3年3月

編集：社会福祉法人 仁至会

認知症介護研究・研修大府センター

〒474-0037 愛知県大府市半月町三丁目294番地

TEL (0562) 44-5551 FAX (0562) 44-5831

発行所：株式会社Dio Agency

〒465-0014 名古屋市名東区上菅二丁目1105番地 オオタ上菅ビル1階

TEL (052) 715-7718
